

カトリック山形教会報 かすみ 9

2018.9.16

カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



6年に一度のイエズス・マリアの聖心会の総会

主任司祭 千原通明

わたしが所属しているイエズス・マリアの聖心会の総会が8月28日から9月28日までローマで開催されます。世界の各管区・地区から代表者が集いますが、日本・フィリピン管区からは本間研二管区長と共にわたしも代表に選ばれて出席することになりました。

6年に一度開かれる総会は丸1ヶ月の期間をかけて、これまでの6年間の修道会の宣教と修道生活を振り返り、今後の6年間の方針を決めていきますが、祈りの雰囲気にも満ちています。そして、新しい総長と本部役員を決めてくることも大切な務めです。

前回の第38回総会は2012年に開かれ、わたしは当時の山田宣明管区長と出席しました。その時のテーマは「宣教」で、主に次のことが優先課題に決まりました。1) 修道会会員は共

同体から派遣されて共同体で働く、という修道生活・宣教の基本を大切にすること、2) 社会から追いやられた周辺の人々を大切にすること、3) 病気や高齢の会員のケアと看取りの重要性、4) 償いの奉仕としての聖体礼拝を大切にすること、などです。

今回は、修道会としての霊的旅路を深め、よりよい奉仕をしていくために、エマオへの道での復活したイエスとの出会いモチーフに、また、教皇フランシスコの「福音の喜び」を指針にしながら、修道者、宣教師、司祭、としての回心がテーマになっています。

実り多い総会となりますように、どうぞお祈りをお願いいたします。わたしも、ローマから皆さまのためにお祈りしています。

聖母被昇天に思いを寄せて

アシジの聖フランシスコ 三井春樹



今年の聖母被昇天のミサは時折強い雨が降っていたためルルドの行列は行わず、最初から聖堂の中でミサが献げられた。

午後6時、聖母の祈りを唱えた後、皆で「あめのきさき」を歌い侍者の子供たちを先頭に千原神父様が入堂し、ミサが始まる。強い雨のためか例年より人が少ないように感じた。今年は洗礼式はなく、いつも通りにミサが献げられた。

午後7時、ミサが終わりヨハネ館にてパーティーへ。持寄りのご馳走やお菓子、アルコール等の飲み物がテーブルからあふれ出そうな程並べられた。皆で千原神父様によるギター演奏で歌を歌ったりして大いに盛り上がった。

この事を皆で分かち合いながら、今後も生活していきたい。

マリアの賛歌

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。
身分の低い、この主のはしためにも

目を留めてくださったからです。

わたしを幸いなものと言うでしょう、
力ある方が、

わたしに偉大なことをなさいましたから。

その御名は尊く、

その憐れみは代々に限りなく、

主を恐れる者に及びます。……………

今から後、いつの世の人も



小教区評議員会報告(承認事項)

特別会計

「司祭館建設資金」の設置について

教会前道路の拡幅に起因して教会敷地の一部が買収されること、付帯して司祭館の一部取壊しが余儀なくされることは以前より知らされておりましたが、現在、2018年の事業認可を目指し、工事着手までは6～10年かかるとの話があり、教会でも昨年及び今年の信徒総会において質問がありその旨を神父様が話されております。具体的工事計画の提案を待って建設委員会の設置そして建設計画・資金調達等が進められると思いますが、「資金の積立については、建設委員会等の発足を待たずとも可能なことであり早いということはありません。

教会では時期・目的を選ばない寄付金を頂くことがあります。これについては一部予定外の収入とも考えられるものもあり、前記の「資金の積立と考え合わせた場合、これらを、そして教会内の諸活動等による収入も合わせて積立てていくこと。これが司祭館新設にむけて私達が出来る第一歩でありその時期でもあると思います。以上のことより、下記事項を決定しました。

記

- 1、特別会計「司祭館建設資金」を設ける。
- 2、目的のある寄付金以外の寄付金、各活動による収入は努めて本会計扱いとする。
- 3、実施日 2018年6月25日より 仮称:建設委員会発足まで

2018年6月24日

小教区評議員会	決定
主任司祭	承認

(追記)

小教区評議員会での討議の根底

- 1、何年か先に司祭館の解体・撤去、新設に直面することになります。資金についてその時期に当たった信者さん達が受持つことになるのか?
- 2、事前に承知している私達にその債務はないのか?
- 3、時代に関係なく全信者の協力が必要。

小教区評議員会





思い出のサマースクール

いつご聖体になるの？ご聖体ってどこにあるの？

2018年7月28, 29日に新庄市のカトリック教会でサマースクールが行われました。山形教会、鶴岡教会からの参加者があり、全8名、スタッフ7名と一緒に楽しい学びを深めることが出来ました。

わたしは、サマースクールで、あゆつかまえて、あゆはすごくぬるっとしていてすこしきもちわるかったけれどたのしかったです。バーベキューは、いっぱいいろんなものがあつたのですごくおいしかったです。

花火は、きれいな色があがつて、とびあがるほどびっくりでした。おんせんからにじが見えて、ラッキーなことがあるとおもっています。
(2年 ようき)

* * *

きょうは、かわらがさむかったけれど楽しかったです。かるたは、おもったよりとれました。あさのさんぽのときはみらいちゃんをつかまえたかったけれど、はやくって、つかまえられませんでした。あやのちゃんが早くかえっちゃってさみしかったです。これからもみなさんおげんきががんばってください。

(3年 よしたか)

* * *

食べ物もおいしかったし、あゆはすごくにげるのは、はよかったし、ごせたいで、せいひつやランプなどをしてよかったです。よるねるときは男子三人だったけれど、よくねむれました。みずのかけあいも、みんなぬれてジュースのおいてある水がつめたかったです。おふろはすわっているとおちつきます。せいしょはふしぎなものだとしました。
(4年 そら)

* * *

サマースクールで、あゆつかまえてをして、自分達でつかまえたあゆをやいてたべたり。花火を打ち上げすごかったです。バーベキューをしてみんなでおいしく食べました。温泉にいて、ろてんぶろからにじがみえて、きれいでした。みんなで歌ったりして楽しかったです。
(4年 つむぎ)

* * *

あゆつかみの時、あゆがいたら、静かによっていって、五ひきつかまえることができたのでよかったです。あやのちゃんとつむぎちゃんとよしたかくんとのおみちゃんでおまごとおし

て、とっても楽しかったです。野菜じるをつくった。

温泉のろ天ぶろから、うすいにじがでていて、とってもきれいだったよ花火が打ち上げられ赤や緑の花火できれいだった。

ご聖体のお話を聞いて「教会のおみどうの赤いランプや聖ひつのことをきにしりながらごミサをうけたいなあ」と思いました。
(5年 みらい)

* * *

今年、初めて山形地区のサマースクールに参加しました。鮎つかみや、花火、みんなと一緒にの食事全て楽しかったです。

また、ただ遊ぶだけではなくて、ご聖体への理解を深めることが出来たのはすばらしかったと思います。

学校や学年が上がって中々教会に来れなくなる子供たちがいると思いますが一緒に過ごした友達や神父様やお母さんリーダー達を忘れずにいつも神様と教会を大切にしてください。楽しい時間でした。ありがとうございました。又来ればよいと思います。

(新潟教区神学生 岡 秀太)

* * *

今年のテーマはご聖体ってなに？

子供たちは目を輝かせながらミサのなかの「聖変化」の事や、ご聖体の置いてある聖室のこと、ランプが付いていたところにイエスさまがいらっしゃることなど興味深く聞いていました。毎年鮎つかまえてはみんな大好きでぬるぬるした鮎に四苦八苦、川原でたっぷり遊び、塩焼きにしておいしそうにほうばっていました。初めて参加した友達も盛りだくさんのプログラムをみんなと一緒に楽しく過ごせた様子でした。

今年も無事サマースクールが出来たのも、おいしい食事を作って下さった新庄教会の有志のみなさまやお祈りとご協力をして頂いた山形教会のみなさまに感謝致します。有難うございました。
(日曜学校 小笠原)



米沢北山原 殉教者列福10周年感謝ミサ

マグダレナ ソフィア バラ 國分容子

7月1日(日)新潟教区主催で米沢北山原殉教者53名の列福10周年感謝ミサが行われました。

当日は、米沢市34度の猛暑の中、米沢を始め、山形県、新潟県、秋田、名古屋の教会から総勢175名の方が参加しました。その中で60名の方が御ミサの前に、米沢教会から北山原殉教地まで米沢市内道路を約40分かけて十字架行列が行われました。

殉教者53名にあわせて53本の竹の十字架を持って歩き奉納されました。炎天下の中を歩いてこられた信徒の方々皆さんが無事に到着されて安堵しました。

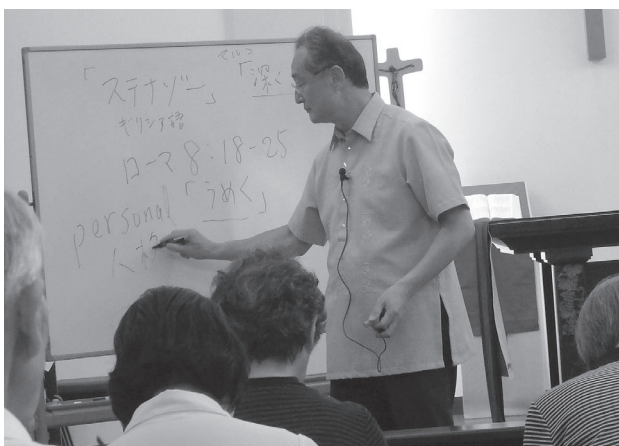
御ミサは、新潟教区、司教代理の大瀧神父様が司式してくださいました。2008年、長崎で列福式が執り行われ、命をか

けて信仰を守り抜いた人々188名のなか、私達の最も身近な人々、米沢の殉教者53名が福者となりました。現代に生きる私達は、堂々と教会へ行き、祈りと信仰を献げられることはどんなに幸せなのだろうと、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。約400年も昔の信者の人々があらゆる迫害にあっても、信仰を捨てずに亡くなって言ったことを忘れてはいけないと思います。

今も、宗教に対する価値観の違いや偏見など感じることはあります。それでも、洗礼を受けた時に誓ったこと、覚悟したことを軸として祈りと共に生きていきたいと思います。

この列福10周年の感謝ミサに参加して、先人の模範すべき生き方を学ぶことが出来ました。

千原神父の聖書講座



今年3月3日から、千原神父の聖書講座が開講されています。毎月第一金曜日、初金ミサ後の10時45分からです。4月は聖マリアこども園入園式でお休みでしたが、7月まで4回実施されており、10月より再開する予定です。

聖書をいざ手に取って読んでみると、すらすら読めない。なぜなら、遠い昔の話で、なじみのない地名や人名が出てきて、福音とか、赦しとか、律法とか、パリサイ人とか、また、考え方も独特で、なかなか歯がたたないというのが、カトリック信者になる前のわたしの実感でした。

西欧世界の人びとのように、当たり前のように、聖書の世界に親しみたいと思うようになり、今回のこの講座を受講しました。これからも、信仰の依り所として聖書に親しんでいきます。

(広報部 関根)



ようこそマクドナ神父様

6月10日(日)司祭館前にどこかなつかしい神父様がミサに来られる信者さんにニコニコ笑顔で挨拶をしておられました。

よく見ますと、なつかしいマクドナ神父様でした。そして私達には突然の出来事でしたが、以前のように静かに9時30分からのミサを司式していただきました。

お聞きしますに、今年86歳、叙階50周年に当り記念休暇があり“ぜひ山形に行きたい”との思いで今回こられたとのこと。現在おられるところは、アメリカ、マサチューセツ州、聖ヘーベン修道院です。

ミサ後ヨハネ館で、以前よりご存じの方をはじめ多くの信者さんと茶話会が催され、叙階50周年を記念してお祝いのケーキカット。そしてご挨拶は「みこころの園」の建設発想から完成までの、教会内での方向付け、関係省庁とのやり取り等、多くの皆さんからいろいろな場面で協力を頂いたことへのお礼と、

その時その場面での自分の思いなど明るくユーモアを含め、ストレートにはなされました。以前と少しも変わらない元気で何となく安心を覚えました。

2002年以降に教会に来られた信者さんは初めてお会いしたと思います。簡単にご紹介しますと1976年(昭和51年)から2002(平成13年)まで山形教会におられ、特に「みこころの園」の建設実現の原動力となられた、日本的に言えば「みこころの園の生みの親」とも言える方です。

翌日、米沢へ行かれる前、墓地にもいかれ旧知の信者さんを始め多くの方々にお祈りを頂きました。

神父様の日本での予定は、これから米沢で1泊され、茨城県、鹿島及び取手教会に行かれアメリカに帰られるそうです。

最後にまた「山形に來たい!」と言っておられました。是非来て下さることを待ちたいと思います。

成田神父、水戸で「金祝」の記念ミサ



7月16日(月・祝)、山形教会から15名を乗せたバスが水戸に向けて出発しました。会場のフェリベールサンシャインに到着すると、山形教会の主任司祭だった頃と変わらない、あの親しみやすい笑顔で出迎えてくださいました。

「金祝」を祝う記念ミサは、さいたま教区とイエズス・マリアの聖心会の神父さまたちの共同司式で行われ、ともにこの喜びを祝うため約250人の信者が集まり、最後は長年の司祭生活に感謝を込めて「花束」が贈られました。

祝賀会では挨拶後、川又神父様と山田神父様の歌に始まり、ワルヨ神父様と信徒によるオカリナと尺八の合奏、聖歌隊のコーラス、フィリピン信徒の方々のダンス、そして成田神父様の素敵なエレクトーン演奏など、最後は成田神父のご要望で、山形から持参した紙傘を配り、花笠音頭を全員で踊り、これからも変わらないご活躍を願いました。(小林)



「お花係の集い」

2018年6月10日(日)11時より、ヨハネ館で「お花係の集い」が行われました。これはお花係リーダーが、丹野一子さんから石山八重子さんに引き継がれることを機会として、ここ数年間行われていなかった打合会を行い、毎週お2人ずつ交代で聖堂・マリア様・ヨハネ館等にお花を飾ってくださっている方々へのお礼と、これからの活動をよりよく進めるためのご意見等を頂く会をかねて催されました。(前回の集いは平成23年?)

石山さんのお手前による抹茶を頂きながら、これまで長い間続けてこられた活動経験の中での出来事など、色々お話があったことと思いますが、皆様全員が笑顔で楽しい雰囲気の中で会は進められました。お花係の皆様、そして今日、出席出来なかったお花係の方、これまで大変ご苦勞様でした。これからもよろしくお願い致します。

そして丹野さん、大変ありがとうございました。また石山さん、これからよろしくお願いします。

お花係の仕事について、信者さんの方で関心のある方もおられると思います。また多くの信者さんも「お花係」の仕事について知って頂くいい機会だと思いますので、今日のお話し内容を掲載しました。(掲載許可済み)

下記、協議事項の必要箇所に、広報部で注釈を付けさせていただきます。

◎協議事項

Q:お花の納品書は石山さんのレターケースをお願いします。

(注)当番の方が、直接、指定の花屋さんから花を購入し

納品書を貰ってきています。

Q:当番日の連絡は必要ですか?

A:必要との事ですので、今まで通り、当番日が近づいたら、当番の方のレターケースに入れます。

(注)当番日は年間予定表で周知しています。

Q:当番日が都合悪い場合は?

A:金曜日でも、または一人でして下さってもよろしいですし、当番日が前の方、後の方と変わっていただけるかご相談下さい。

Q:教会の庭の花(聖堂東、物置南側他)も覗いて下さい。昨日は百合が3輪咲いていました。

(注)花屋さんからの購入だけでなく、庭の花、贈与・寄付等の花も使っています。

Q:水屋の片付け(水屋は片付ける人がいませんので、お花当番の方で気のついたときに、よろしくお願いいたします。水屋が物置になってきますので)

Q:担当者なしの日9月29日(第5週)丹野が担当します。

12月29日(年末)と3月16日(四旬節)石山、丹野が担当します。

Q:自分の好きな花瓶で活けたい。祭壇のイエズス様の御像の傍に活けたい。

A:いずれもOK。祭壇の前の花は、祭壇より低く、高くなるような時は横に置くようにして下さい。

以上が「お花係の集いでの話しです。皆様もご理解のうえ、ご協力お願い致します。

山形 脱出の記

ラウレンチオ 高橋日出夫

4月に東京に転居されました高橋日出夫さんに、転居のこと、現況等について投稿をお願いしました。

昨年12月に齢(よわい)70になって仕事を辞めたのを機に、この春に花のお江戸に引越した。

早いものでもう4ヶ月が過ぎたけれど、相変わらずの山形弁である。でも、これが私のアイデンティティーであるし、これで十分通じるのだから敢えて直そうとは思わない。

その昔、山形に居を移して10年以上にもなるのにわたしの山形弁が解らないと宣(のたま)われたエライ御仁が居たけれど。

このたびの引越しについて私の周りの評価は二分される。「あら、羨ましい。出来れば自分もそうしたい。」派と、「ほだな歳になってから東京さ引越すなんて。東京がら山形さ来るんだったら解るげっと……。」派である。そりゃあ常識的には後者の意見が正論とは思うけど。そこは生来のヘソ曲がり、この歳になったが故の転居なのである。幸いわたしには伯父伯母どころか従兄弟すら一人もいないから人的束縛は全くない。いずれにしても余命が何年あるのかは神のみぞ知るであるけれど、どう転んだところでそう長くはないのだから、せめて晩年ぐらいは好きなように暮らしてみたいと単純に思った結果の引越して、復活祭の後の、転居の挨拶でも口が滑ったように、何せ花のお江戸は「ネエチャンがキレイ」で目の保養、白内障も良くなるのではないかと。

そうは言っても退職者の常、実際には無聊(ぶりょう/退屈)をかこう日々である。マンションの直ぐ脇がバス停でほぼ7～8分置きに銀座4丁目経由東京駅八重洲口行き新橋駅行きの都営バスがあり、都営地下鉄と同じく、御ン家内は無料ではあるけれど(但し、半年に1000円)、特に用事もないのに東シナ海を越えてきた五月蠅〇〇人だらけの雑踏に出掛けても草臥(くたびれる)れるだけだし、それに第一、我家には先に立つ福沢先生が仲々訪れてくれない。そこでやむ無く、「小人閑居して不善を為」さないよう大人しく引き隠(かく)る次第。楽しみと言えば唯一、14階のベランダからこの月島と晴海を隔てる朝潮運河の水面と時おり上り下りする屋形船を見下ろし、対岸の数棟のタワーマンションの灯りと、更には晴海運河の先の豊洲に出入りする「ゆりかもめ」を眺めながらの糖質ゼロのビール擬(まが)きである(別に糖尿病じゃないけれど)。というわけで、外の景色は変わったけれど日々の生活は基本的には変化なし。ただひとつ変わったことは、主治医のほかに、県立中央病院、東北中央病院、山形済生病院が虎ノ門病院にまとまったことか。ああ、それにもうひとつ大事なこと。見てのとおり前々から頭頂部と前頭部はかなり「薄井さん」だったけれど、こちらに来てからとみに「照井さん」になって、代父のMさんに似てきたようである。



さて、この戯れ文が「かすみ」に乗るというのであれば、一言わたしとキリスト教の関わりを書いておかなければならないだろう。

私が5～6才になった頃、我家には明治初年の作という縦30センチ弱、横20センチ、奥行き5～6センチの、額と言うより古ぼけた木箱に入った聖母子の描かれたイコンがあった。まさか山川りんの作ではないと思うけれど、幼子ハリストス(イエス)の顔が山川女史のそれとよく似ているし、曾祖父は直接、聖ニコライから洗礼を受けたというから果たしてどうなのか。それに、ちょうど60年前(昭和33年夏)に52歳で帰天した親父が旧制中学時代に作ったという高さ15センチ位の石膏製の膝まづくヨハネ像があった。よく見れば、作者の霊名であるヨハネでなく、ゲッセマネで祈るイエスのように思えるのだけれど、わたしにヨハネと教えたのは親父の兄のペトロさんで、ちょっとガセネタっぽいのが、今となっては作者に確認する術はない。いずれにしても親父はキリスト教(ハリスト正教会)の信徒として、食事の前には何かモゴモゴ、アーメンと唱えていたし、毎年のクリスマスには私と弟を巻込んで降誕祭を祝っていた。ただケーキは兄弟喧嘩の原因ではあったけど。

そのような背景があったからか、16～17歳の頃に初めて聖書にトライした。もちろん新約聖書である。然し、冒頭のマタイを読もうとして早々に挫折した。「なんだこりゃ?、14代、14代、14代と(今思えば高木酒造の宣伝文句じゃあるまいし)ご先祖サマの名前ばかり。イエスは神の子なんでしょ?。だったら42代もご先祖サマってなんなのやあ?」というのが若かりし頃の私の率直な感想であった。それにも増して良く解らないのが5-3「心の貧しい人々は、幸いである。……云々」である。黒板に背中を向けて授業を受けてきた私の読解力では、心の貧しい人とは、先ごろ覚醒剤中毒とされて帰天した和歌山の資産家を思い浮かべてしまう。元フランスコ会管区長で大阪は釜ヶ崎で司牧に当たられた本田哲郎神父は、心の貧しい人とは、「貧しき故に小さくされた人である」として新共同約の「心」と「幸い」は誤訳である、と明確に述べている。(釜ヶ崎と福音98ページ以下)。また、ヒマ潰しに教分館に寄ってみたら、先月(7月)刊行された「新約聖書・本文の訳」(田川健三著)が平積みされており、これによれば「幸い、霊にて貧しいもの。天の国はそのものたちのものである。」と訳されている。いずれにしても良く解らん。もう少し、我々にも解るように単純明解に訳せないものか。だから、私は雅歌1-13,2-6が一番好きだと言うことになる。今更遅いけれど、「ミルウの匂い袋」にあやかりたい。

では、10月に帰形したときに。

— 思い出の記 —

アヴィラの聖テレジア 鈴木玲子

去る13年前のこと、突然主人(イシドロ鈴木敏夫)が天に召されました。余りにも突然のことに驚き「神様どうしてですか?」と問いかける毎日でしたが、聖書の黙示録(21-4)を思い出しました。

“神様は人の目の涙をすべてぬぐいとってくださいる…”とあります。その後は主人の死がとても幸せに感じられるようになりました。

以前の信者会館に於いては建設委員会以前のプラン委員会より携わって来ました。現在のヨハネ館を多くの方が「いつなの・まだなの」と待ち侘びておられた皆様によく問われていた主人が最近のように思われます。

その皆様方は完成を見ることなく天国に召されました。私は亡くなられた方々を思いながら、時を告げる天からの贈り物としてヨハネ館に時計をかけさせていただきました。

私がこの時計を選ばせて頂いたのは、12時と6時のお祈りの時間にルルドと言う曲が入っていたことにあります。各時の時報毎にステキな曲で時を知らせてくれます。時を告げ知らせる天からの贈り物としてご利用いただければ幸いに存じます。

このヨハネ館には多くの方々のご苦勞が沢山つまっております。教会には陰になり日なたになりそれぞれ皆様方の奉仕の姿を神様はすべてご存じだと思っております。



*広報部より紹介

- ・この時計はヨハネ館ロビーの北側の壁にかけてあり、発売元リズム時計工業でヴィバーンとして名高い芸術品といわれる素晴らしい時計です。
- ・ご主人、鈴木敏夫さんは、ヨハネ館建設、特に聖堂正面の「よき牧者キリスト像」の修復、聖堂屋根・外壁改修工事等、教会運営に尽力された方です。



雨の中の墓地ミサ

今年の春の墓地ミサは5月5日10時から行われました。昨年同様、ミサ実施の可否に難しい天候となりました。午前中の天候予報は“雨”ですが、詳細“雨雲の動き”は、山形市は9時30分以降、1mm以下/h。順次雨雲はなくなる雲の動きであり、これを基にミサの準備に入りました。予定通り9時を過ぎた頃から青空が広がり日差しも暖かくなり明るくなってきました。これで大丈夫との安堵感もあり祭壇のテントだけを張り、信者さん席はテントを張らずイスを並べ、聖歌集を置き終えました。ところが雲は予報通りには動いてくれません。なんとなく危うい天候に戻りつつあります。信者さん席もテントを張ろうと言うことになり3テントを張り終えたところ間一髪で雨が落ちて

きました。当初は“雨の中でのミサもなんとなく落ち着いていだろう”なんて思っていたのですが、雨は強くなったり弱くなったりの繰り返し。テントの屋根に溜まった雨水が時々流れ落ち初め、テントの中は不安感もいくらか漂い、内心、このまま続いたらと心配もよぎりました。

しかし、この雨の続くなかで、ミサ開始の案内が始まったとたんどうでしょう!テントの中は、澄んだ静寂な空気で満たされ、皆様は何の心配もなく、ただミサに預かるという感じで、千原神父様のウクレレに合わせて入祭の歌「ガリラヤの風かおる丘で」は静かに墓地の中に流れました。不思議に雨の音は聞こえませんでした。そしてミサが進むなか雨は強弱を繰り返しましたが「主の祈り」の時より小雨に変わり聖体拝領の時にはやんでくれました。聖体拝領時はどうしてもテントの外にはみ出すことになり心配でしたが!(お恵みでしょうか?)そして閉祭の歌「ごらんよ空の鳥」。かがやく虹は出ませんでしたが恵みの雨?のあとのすがすがしい晴れ上がった空が浮かび上がりました。ミサ後、個々の墓を祝別して下さっている千原神父さまには大変申し訳ありませんでしたが、一足先に、皆んなで恒例のだんごを頂きながらの茶話会。どんな話があったのでしょうか?皆様には亡くなられた親族・先輩・友人の思い出話などそれぞれあったのではないのでしょうか?加えて「雨の中でのミサは特に記憶に残ることになることでしょう。最後に皆様より後片付けを手伝って頂き無事終ることが出来ました。ありがとうございました。

(墓地管理部)